

粵語方言俗字“啷”の歴史

竹越美奈子

1. はじめに

小稿では、粵語方言俗字“啷”の歴史的変遷を早期粵語資料（19世紀から20世紀初頭にかけて主に西洋人によって編纂された広東語の教科書や辞書。今回使用するものは1828年から1947年までの32種35冊）から跡付ける。粵語方言俗字とは、方言語彙を表すために新しく作られた漢字であって歴代の共通語字典には未収録（《現代漢語詞典》に収録されているものもあるが、他の方言の音義によっており、粵語における積義・用法とは異なる）のものとして定義される。

（黄小婭(2000)、Matulewicz(2005)）方言俗字の造字法には、形声、会意、象形、変形表意などがある。（Matulewicz(2005:32-34)）

なお、“啷”の発音は[kɔ³⁵]（陰上）、品詞は指示詞で意味は「それ.その.あれ.あの。」¹、この字の構造は「個 [kɔ³³](陰去)+口偏」で、方言俗字の造字法の形声字である。

2. 概要

広東語ではもともと“個” [kɔ³³](陰去)が量詞と遠称の指示詞の2つの機能を備えていたのであるが1859年の資料から指示詞に対して[kɔ³⁵](陰上)の表記が用いられるようになった。こうして量詞と指示詞が別の音に担われるようになったため、指示詞専用の字として1874年に初めて“啷”が現れた。²その後今日に至るまで、他の字と競合することもなく、安定して用いられている。その理由は、“個”と“啷”は声調をのぞく発音が全く同じであること、“個”に口偏を加えるというこの語の由来のわかりやすい構造に多くの人が納得したからであろう。

3. 詳細

早期粵語資料において、遠称の指示詞はMorrison(1828)からDevan(1858)まで、量詞と同じ“個” [kɔ³³](陰去)であった。Chalmers(1859)になって、後続の量詞が“個”である指示詞（“個個”指示詞+量詞「その、あの」、以下甲類と称する）のみ陰上で注音され、“個”以外の量詞または数詞などが後続する指示詞（以下

¹ 『東方広東語辞典』による。

² Dennys(1874)に登場した字体は“{𠵼回}”。この字は同書のほか1冊に登場して、その後わずか14年後に“啷”に代わった。拙稿(2005)では、この字を“啷”の異体字と考えて、Dennys(1874)から“啷”が登場したとした。本稿でも拙稿(2005)と同様の扱いにする。

乙類と称する)は陰去のままであった。³これは指示詞+量詞(“個個”指示詞+量詞「その、あの」)と量詞の反復形(“個個”量詞+量詞「すべての」)を区別するためである⁴。その後 Castaneda(1869)から Cowles(1918)までの資料では、甲類についてはほぼ陰上で統一されているが、乙類については陰上(同じ指示詞なので甲類にならって陰上になったほうが安定する)と陰去(陰去のままでも意味判別上の問題もなく、陰上に変わる強い動機がない)が混在する状況が長く続く。甲類乙類ともに陰上に統一されるのは、Chao(1947)である。

さて、指示詞専用の漢字“咽”が初めて資料に登場するのは、甲類に陰上の注音が登場した Chalmers(1859)より 15 年遅れて Dennys(1874)である⁵。甲類に関しては以後多くの資料でほぼ“咽”に統一されたが⁶、乙類に関しては“咽”と“個”が混在する状況が長く続き、甲類・乙類ともに“咽”に統一されるのは Chao(1947)になってからである。⁷

4. おわりに

以上をまとめると図 1 のようになる。

図 1: 早期粵語資料中の遠称指示詞表記の変遷

| 年代 | 1828 | 1850 | 1900 | 1950 | 2000 |
|----|------|------|------|-------|---------|
| 甲類 | 声調 | 陰去 | 1859 | 陰上 | |
| | 漢字 | 個 | 1874 | 咽 | |
| 乙類 | 声調 | 陰去 | 1869 | 陰去/陰上 | 1947 陰上 |
| | 漢字 | 個 | 1874 | 個/咽 | 1947 咽 |

図 1 より、声調の変化の後で新しい漢字が生まれたこと、変化のための強い動機があった甲類の変化がすぐに完了したのに対して、強い動機のなかった乙類には約 90 年の過渡期があったこと、しかしながら変化が始まってから全て完了するまでわずか 100 年未満であったことなどがわかる。もちろんこれは資料

³ 広東語の指示詞は必ず量詞などの他の成分が後続しなければならない。

⁴ 早期粵語資料中の Williams(1856:167)に言及がある。

⁵ 『広東語小説集 (俗話傾談)』(邵彬儒原編、魚返善雄校点、1964 年小峯書店)の校点者跋によれば「「個」と「咽」の区別などは原本(刊行は 1870 年以後)において用いていない」。なお、この資料に関して千島英一先生に大変お世話になった。貴重な資料を貸してくださった千島先生にこの場を借りて心より感謝申し上げます。

⁶ ただし、辞書に関しては、この時期、甲類に対しても依然として“個”のみが使われていた。辞書に初めて“咽”が使われたのは Chalmers(1907)である。

⁷ 数字の詳細については拙稿(2005)参照。

に反映した変化にすぎないが、実際の言語においても比較的短期間におこった変化である可能性が高い。

参考文献

- 黄小婭(2000) 「粵語方言用字一百多年来的演变」『第七届国际粤方言研讨会论文集』商務印書館、pp.237-260.
- MATULEWICZ, Pawel(2005) 「粵語特殊方言用字研究」『中国語文研究』 vol.20:25-38.
- 辻伸久(1986) 「香港 1997 年とカントン語」『言語文化研究所紀要』 no.18:117-139.
- 竹越美奈子(2005) 「広州話遠指詞“啲”的歷史演变」『中国語文研究』 vol.20:19-24.

早期粵語資料

- (1)Morrison, Robert. 1828. *A Vocabulary of the Canton Dialect*. Macao: G. J. Steyn & Brother.
- (2)Bridgman, E.C. 1839. *A Chinese Chrestomathy in the Canton Dialect*. China: S.Wells Williams.
- (3)Bridgman, E.C. 1841. *A Chinese Chrestomathy in the Canton Dialect(enl.ed.)*.Macao: S.Wells Williams.
- (4)Williams, S. Wells.1842. *Easy Lessons in Chinese*. Macao : Office of the Chinese Repository.
- (5)Devan, T.T. 1847. *The Beginner's First Book in the Chinese Language (Canton Vernacular)*. Hong Kong: China Mail Office.
- (6)Bonney, Samuel W. 1854. *A Vocabulary with Colloquial Phrases of the Canton Dialect*. Canton: Office of the Chinese Repository.
- (7)Williams, S. Wells.1856. *A Tonic Dictionary of the Chinese Language in the Canton Dialect*. Canton: Office of the Chinese Repository.
- (8)Devan, T.T. 1858. *The Beginner's First Book, or Vocabulary of the Canton Dialect*. Hong Kong: China Mail Office.
- (9) Chalmers, J. 1859. *An English and Cantonese Pocket Dictionary*. Hong Kong: London Missionary Society's Press.
- (10) Lobscheid, W. 1864. *Grammar of the Chinese Language(2 vols.)*. Hong Kong: Office of the Daily Press.
- (11) Castaneda, B. 1869. *Gramatica Elemental de La Lengua China, Dialecto Cantones*. Hong Kong: De Souza & Ca.
- (12) Dennys, N.B. 1874. *A Handbook of the Canton Vernacular of the Chinese Language*. London : Trübner & co./ Hong Kong: China Mail Office.
- (13) Eitel,E.John.1877. *A Chinese Dictionary in the Cantonese Dialect*. Hong Kong :China Mail Office./London

- (14) Chalmers, J. 1878. *An English and Cantonese Dictionary*(5th ed.). Hong Kong: De Souza & Co.
- (15) Ball, J. Dyer. 1888. *Cantonese Made Easy*(2nd ed.). Hong Kong: China Mail Office.
- (16) Fulton, A.A. 1888. *Progressive and Idiomatic Sentences in Cantonese Colloquial*(3rd ed.). Hong Kong : Kelly & Walsh, Ltd.
- (17) Stedman, T.L. and Lee, K.P. 1888. *A Chinese and English Phrase Book in the Canton Dialect*. New York : Brentano's.
- (18) Kerr, J.G. 1889. *Select Phrases in the Canton Dialect*(7th ed.). Hong Kong: Kelly & Walsh, Ltd.
- (19) Chalmers, J. 1891. *An English and Cantonese Dictionary*(6th ed.). Hong Kong: Kelly & Walsh, Ltd.
- (20) Hess, Emil 1891. *Chinesische Phraseologie*, Leipzig :C.A.Koch's Verlag.
- (21) Ball, J. Dyer. 1894. *Readings in Cantonese Colloquial*. Hong Kong: Kelly & Walsh, Ltd.
- (22) Ball, J. Dyer. 1902. *How to Speak Cantonese*(2nd ed.). Hong Kong: Kelly & Walsh, Ltd.
- (23) Ball, J. Dyer. 1904. *How to Speak Cantonese*(3rd ed.). Hong Kong: Kelly & Walsh, Ltd.
- (24) Wisner, O.F. 1906. *Beginning Cantonese*. Canton: China Baptist Publication Society.
- (25) Ball, J. Dyer. 1907. *Cantonese Made Easy*(3rd ed.). Hong Kong: Kelly & Walsh, Ltd.
- (26) Chalmers, J. 1907. *English and Cantonese Dictionary*(7th ed.). Hong Kong: Kelly & Walsh, Ltd.
- (27) Ball, J. Dyer. 1908. *The Cantonese Made Easy Vocabulary*(3rd ed.). Hong Kong: Kelly & Walsh, Ltd.
- (28) Eitel, E. John. 1910. *A Chinese-English Dictionary in the Cantonese Dialect*(2nd ed.). Hong Kong: Kelly & Walsh Ltd.
- (29) Ball, J. Dyer. 1912. *How to Speak Cantonese*(4th ed.). Hong Kong: Kelly & Walsh, Ltd.
- (30) Jones, Daniel, and Kwing-Tong, Woo. 1912. *A Cantonese Phonetic Reader*. London: University of London Press. (魚返善雄訳『廣東語の發音』1942年、東京：文求堂)
- (31a) Cowles, R.T. 1915. *Inductive Course in Cantonese Book First*. Hong Kong: Kelly & Walsh, Ltd.
- (31b) Cowles, R.T. 1916. *Inductive Course in Cantonese Book Second*. Hong Kong: Kelly & Walsh, Ltd.
- (31c) Cowles, R.T. 1918. *Inductive Course in Cantonese Book Third*. Hong Kong: Kelly & Walsh, Ltd.
- (32a) Chao, Yuen Ren. 1947a. *Cantonese Primer*. Cambridge, MA: Harvard University Press.
- (32b) Chao, Yuen Ren. 1947b. *Character text for Cantonese Primer*. Cambridge, MA: Harvard University Press.